

1961(昭和 36)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

狭山市柏原に生まれ、柏原在住。狭山市立柏原小学校、西中学校卒業。子どもの頃、家にあったカメラに興味を持ち写真を撮り始める。高校では写真部に所属。18歳の時には自宅に暗室を建て、カラー写真の現像まで行う。その頃は主に風景写真を撮っていた。その後、東京写真専門学校(現・東京ビジュアルアーツ)に進むが、講義内容は既に独学で身に付けていたことがほとんどだった。卒業後、フィルム会社で2年間手焼きに従事するが、そこでプロの仕事の厳しさを学んだ。1983(昭和 58)年に独立し、自然写真の撮影を始める。2018(平成 30)年、狭山市民展にオーロラの写真が招待展示され、ギャラリートークを行う。2020(令和 2)年には狭山市立博物館で「田中雅美写真展 オーロラの旅へ」が開催され、多くの市民に美しい絶景写真を紹介し、オーロラの魅力を伝えた。



2. 主な業績

① 自然写真家

23歳の時、高麗川で溪流写真を撮っていたところ偶然ヤマセミと出会い、その美しさに衝撃を受ける。以来12年間ヤマセミを追い続け、写真集『山翡翠』を出版。現在は、自然と動物の静止画と動画を撮影し、主に日経新聞、フジ産経系列で作品を公開している。富士フォトサロンをはじめメーカー展や企画展など、写真展を全国で開催。写真誌や旅行誌、パンフレット、ポスター等に掲載された写真も多数に及ぶ。テレビ番組取材で奄美大島や石垣島に足を運ぶことも多く、希少な生物の撮影に取り組んでいる。さらにフィールドを広げ山岳写真の撮影も行っている。



② オーロラ写真家

オーロラ写真家・門脇久芳氏に同行し、フィンランドで初めてオーロラを見て自然の絶対的驚異を体験する。以後、カナダのイエローナイフを主なフィールドに四季のオーロラの絶景を静止画と動画で撮り続けている。旅行会社のツアーインストラクターや同行撮影も行う。また、NHK「天空のスペクタクル～オーロラ・四季の絶景」など多くの番組制作に携わり、出演、作品の提供を行っている。カナダ観光局ノースウエスト準州観光局公認の自然写真家。公益社団法人日本写真家協会会員。主な書籍は、オーロラ写真集『極北の絶景パノラマ・オーロラ』『極光の彼方 リアルタイム・オーロラ』等。

〈文中写真タイトル「THE MYSTERIOUS NORTHERN LIGHTS/春の予感」〉

3. 特 筆

「オーロラ写真は同じ場所に何年通っても同じ写真は1枚もない。だから追及し続けられる」と語る。人間には感じられない磁気を感じるのだろうか、オーロラが出現する前、オオカミや犬ぞりの犬たちが一斉に鳴き出すという。氏は「これからもオーロラ伝道師としてオーロラの写真の撮り続け、その魅力を伝えていきたい」と語った。

〈インタビュー〉 田中雅美氏